

Title	歯科医師半世紀を顧みて
Author(s)	櫻井, 善忠
Journal	歯科学報, 110(1): 10-15
URL	http://hdl.handle.net/10130/1208
Right	

東京歯科大学創立120周年記念記事

「継承と発展」—各界の卒業生に聞く—

歯科医師半世紀を顧みて

櫻井善忠

昭和35年卒業

太陽歯科衛生士専門学校 校長

はじめに

今回本誌編集担当者から執筆依頼を受け、喜んで快諾させて頂きましたが、編集の主旨目的があまりはっきり理解出来ぬまま、日常業務の概要をご紹介申し上げるという程度で執筆させて頂きますので宜しくお願い致します。従って「私の履歴書」的な解釈しておりますので、私のやって来たことが多岐に亘っており、同時発信をしようと致しますと10以上の組織団体での業務が錯綜して混乱を来しますので、主たる業務を項目別に取り上げてお伝え申し上げます。

先ず私の生い立ちの様なものから触れさせていただきますと、私は昭和10年10月30日、東京の下町荒川区の自宅でお産婆さんの手で生まれました。

父は、宮城県の現在柴田郡村田町出身で独学で大正中期に歯科医師開業試験に合格し荒川区で開業、大正の終わりに米国に留学してドクトルの称号を得た開業医の三男として生まれました、小学校で学童疎開に行った世代です。兄が二人戦時中に東京歯科医専を卒業して、軍隊に取られ、帰還後、勤務医を経て独立開業してしまいましたので、私は三男でも家を継ぐことになってしまい、家督並みの責任を負ってきました。もう一つの転機は、東歯大卒業間際に肺結核をわずらい、国試は合格しましたが半年間位出遅れとなり、それが他の所に勤務せずに、父の後継者として歯科医師会関係の場に若くしてデビューさせられた？ことになり、今日の歯科医としての私の原点となっております。

では、前述の通り組織団体別の業務概要を述べさせていただきます。

1. 歯科衛生士養成

昭和53年4月に山本義茂病院長に呼ばれ、櫻井君、歯科衛生士学校を作るのを手伝ってくれないかといわれ、お手伝いと認識で軽く引き受けたところ、メインになってしまい、都庁をはじめ関係機関廻りから資金調達まで働き廻ることになってしまいました。それは、後で知ったのですが山本病院長が都の歯科衛生士試験の委員長をされており、都の局長から当時の歯科保健の担当副参事の武田君子先生の定年後のことを頼まれていたので、歯科衛生士学校を作り、学院長に迎えたらということでした。歯科衛生士学校は個人に認可されたためしがなく、学校法人か医療法人の設立が条件となり、私の西日暮里の診療室を基に医療法人を作ることになりましたが、基本財産1億円、学校施設、養成所指定規則に則った教育内容、教員講師陣の確保、諸手続、等々沢山あり専任の事務員や機械メーカー数名の方の協力で何とか昭和54年4月の開校の準備は整いました。私も自分の友人、先輩、親類に呼びかけて1億円の捻出にこぎ付けました。定員50名で申請したところ、ビルの柱の出っ張り等で難点をいわれ、結局30名定員で認可されました。最初の1年間は授業料等が1年生分だけで運営する厳しさは並大抵のものではない中、教職員との予算上のトラブル等、専務理事的の私が悪者になるしかありませんでした。小さくても学校を設立する苦労が後の私の仕事にプラスになっていると思います。

最初の法人と学院のスタートは山本義茂理事長、武田君子学院長で始めましたが、30名定員では学院経営が成り立たず、早急に施設規模を大きくし、定

員を増やさないと折角の意義ある歯科衛生士養成の仕事も続かなくなるので、創設後は、移転先の物色に奔走しました。翌年やっと足立区花畑に役所の払い下げ物件が手に入るようになりました。金融機関の協力を得て、2億円の土地に2億円の3階建校舎と施設が整い、80名定員2年制の専修学校規定にあった専門学校の特許が得られました。武田君子学院長はお身体の都合で退職され、初代校長に私が就きました。昭和58年に法人と学校が別々になっている不便さから一体化する意味もあり、法人理事長も私が兼務するようになり、今日に至っております。

一方、歯科衛生士養成に深く関わってしまった私としては、その養成と歯科界での活かされ方について、色々と考えさせられることが多くありました。友人の当時千葉県立衛生短期大学の成田むつ先生の紹介で、昭和58年榊原悠紀太郎会長の全国歯科衛生士教育協議会に首を突っ込むことになりました。全衛協の役員は、口腔衛生の学者や教育専門の校長先生ばかりで、私の様な開業医は居なかったので、会の会計部署から手を付け、法人組織ではないが、歯科医師会並みの会計基準を導入して、成田先生と共に着々といわゆる会の体裁を整えて行きました。石川達也顧問にも大変評価をいただきました。会計担当理事を4期8年務め、その間、会長が兵庫の善本先生となり、平成6年から在京の副会長となり、平成9年から3期浅井康宏会長をお支えし、平成15年、浅井会長の後を受けて、第5代目の会長となり3期6年務めさせていただきました。その間、厚生労働省の医療従事者や需給関連検討会や厚生科学研究班に属し仕事をさせていただきました。歯科医療研修振興財団には、今から15年前から歯科衛生士国家試験の全国統一試験に伴う、全衛協が振興財団に入る準備から関与し、私立歯科大学協会の幹部や厚生省から来る財団事務局長等との寄付行為の解釈や覚書の内容の調整に腐心させられました。そして、当初の評議員から平成6年財団理事を21年8月まで15年間、その間、国家試験の事後評価委員、試験委員推薦委員等で開業医サイドに立った建設的な意見をどんどん出すので、厚生省の他の免許業種との関係を主張する財団事務には困惑させることが多かったと思いますが、当然のことと思っています。

ところで、平成17年に歯科衛生士養成所指定規則

の一部改正に伴い修業年限を2年以上から3年以上となり、経過措置5年間は付き、平成22年3月31日までとなり、4月の新入生からは3年以上となりました。全国約160校の養成校のうち55%が平成21年までに移行しており、残る45%が全て平成22年4月から3年制移行となります。

私共の歯科衛生士校もいよいよ3年制移行が決定し、学生募集に入りました。最近18歳年齢の減少と歯科界低迷のための歯科衛生士の志望者の減少のため、養成校が軒並み定員割れを来たしておりますが、私共の学校でも現在地の足立区花畑は、交通アクセスが大変悪くこのままの状態では、定員割れ必至、右肩下がりで存続が怪しくなる見通しであるため、日暮里駅前の再開発ビルに移転する意向で臨みました。良い教育内容をもって、アクセス良好で現在の歯科衛生士不足に対応して社会の要請に応える形で夜間部の開校を同時に考えました。日本総研の調査によると、歯科助手の人達の中で歯科衛生士の資格を取りたいと希望している数が首都圏で2000名いるという結果が報告されていますので、夜間部の必要性が証明されております。今まで通り、歯科助手として働きながら午後5時半頃から学校に来て昼間部と同じ3年間で卒業、国家試験を受けて、晴れて免許取得し、口腔ケアの専門家として、また診療補助としては、診療行為である相対的歯科医行為を行える資格者となるので、こんなに良いことはないはずです。ただ世間で歯科衛生士学校の夜間部が知られていないうらみがあり、応募数が心配されるどころです。

2. 学校歯科

臨床歯科医師としての使命には個人的使命と社会的使命の二つがあります。勿論人間として社会人としての使命義務が優先されるのは当然ですが、開業歯科医としての個人的使命は、来院する患者さんに対しての歯科医療サービスと個人口腔衛生活動があり、どなたも何らかの形で達成されておられるわけです。しかし、もう一つの社会的使命は主として地域を対象の歯科保健活動であります。

私は来院患者さんに対する活動から対社会的歯科保健活動に傾注し過ぎた人間かもしれません。はじめのことばで申し述べましたように卒後早く地元の

歯科医師会に2種会員として入会していたので、昼間の時間帯に出向するような場合に会長先生から櫻井君出てくれないかと要請される機会が多く、例えば、母親学級の講師等、担当理事でもないのに常連になってしまいました。診療室で一生懸命歯科保健の話をして余り真剣に聞いてくれないのに保健所で初産婦を相手に話をすると皆、大変真剣で終わっても個人的な相談で並べられたりして、プロとしてこんなに嬉しい、やり甲斐のある仕事はないと自己満足したものでした。私は公衆衛生活動にやり甲斐を感じ、更に学校歯科保健に傾注して行き、現在も都学歯会長として現役で活動しております。

そもそも学校歯科にのめり込んだのは、近所の仲の良い先輩が地区歯科医師会の副会長で地区学校歯科医会の会長になった時、櫻井君専務をやってよ、と強く誘われ、当時学校歯科医ではなかったのに28歳の若さで引き受けてしまいました。全国大会の視察校を誘致したり、区歯会員を分担させ学校歯科医のグループ制を敷いたり、区行政レベルで小中学校3学年を対象にフッ素塗布(う歯予防対策事業)を行うよう、区教委、区議会、校長会等に働きかけ、実施に当たっての歯科衛生士確保にライオンとサンスターの口腔衛生部に働きかけ結局、大阪のサンスターの歯科衛生士4名が1ヶ月間荒川区に常駐し器材の運搬は歯科材料会社に受注させ、区から2千万位の予算を確保して昭和42年から実施し、本年も40数回目のう歯予防を区歯全員のグループで続けています(最近塗布から含嗽に変えています)。こんな時に都学歯の会長が亀沢シズエ先生(昭和35年~45年)だったので何かと相談にのってもらい、アドバイスを受けていた関係で、昭和38年から都学歯の学術常任委員として第1研究グループに属し、高橋一夫学術担当常任理事のもとで、主として初期う蝕の検出基準等の研究に取り組んでいました。そんな関係で虎ノ門ホールで開催の第1回東京都学校歯科保健研究大会の学術発表に研究班のキャップとして「初期う蝕の検出基準」をテーマに発表していますが、その時、終始医歯大予防歯科の島田助教授(後に東北大学学部長)に資料とご指導をいただいたことが歯科保健の原点の勉強に大変プラスになったことを感謝しております。

次に地区、都学歯、日学歯、保健会等での活動を

簡単に申し上げます。

○荒川区学校歯科医会において

昭和38年に荒川区学校歯科医会専務理事、その後理事として6年、途中昭和40年に(社)荒川区歯科医師会の学校保健担当理事を兼務

昭和50年に区歯の副会長で公衆衛生・学校保健担当をやり、その後も16年間学校歯科医会に関与、その間、区の学校保健会の常務理事、平成3年荒川区歯の会長で区学校保健会の会長も務めました。現在も区歯の顧問、相談役的役割で常に引っ張り出されております。

○都学校歯科医会において

前述の通り、亀沢会長の指名で昭和38年学術常任委員を15年務めました。その間、亀沢会長の私設秘書のような役割で、どこでも同道させていただき、息子のように可愛がっていただきました。次の関口会長の時(昭和43年)、常任理事、法人化されて、昭和44年から理事、昭和63年専務理事、平成2年から西蓮寺会長に代わると副会長を16年務めました。平成18年に会長就任、現在2期目を終わろうとしています。その間、都学校保健会は歯科部会を代表して、各種委員、部会幹事、昭和63年から理事、常務理事、平成18年副会長を現在やっておりますが、長く務めているので、都教育委員会の方々や学校3師・校長、養護の先生方と色々な活動を通してお話し合いがスムーズに行っていました。

○日学歯において

前出の亀沢都学歯会長が日学歯の副会長をやられていましたので、何かと連れ回され、文部省の教科調査官や歯大教授達と話をすることが多くなり、自然の流れで各種委員をやらせてもらい、都学歯理事の立場から昭和62年に日学歯の常務理事となり、そのまま平成16年まで、副会長、専務等を務めておりました。その間、日本学校保健会で健康診断調査研究委員や各種委員に出向し、平成13年には日学保の常務理事になり、学校歯科の立場から意見具申をしておりました。

以上の結果昭和60年都教育委員会より保健衛生功労として表彰、平成2年に都知事賞、平成8年文部大臣賞、平成10年に藍綬褒章を受章させていただきました。

3. 歯科界, 同窓会

前述の通り, 私は20歳代の後半から地区の歯科医師会, 30歳代後半から都歯レベル, 40歳代後半から日歯レベルでの会務に協力して来ているので列挙したら数限りがないと思うので, 簡略に記載いたします。

○荒川区歯科医師会

昭和40年から理事6年, 昭和50年から副会長4年, 平成元年に監事を1期やって平成3年区歯の会長, その後も区の行政との折衝も含めベテラン会員として各種の後, 委員は現在まで続いています。区歯選出の都歯代議員も昨年まで20年務め続ける結果になってしまいました。

○東京都歯科医師会

昭和58年に東京都歯科医師会の医事処理担当理事を務めました, それまでに社保審査委員4年, 国保審査委員3年を務めました, 4年目に入るに当たり, 前述の歯科衛生士学校の校長になることになり, 審査委員を退任させていただきました。

私はその間も学歯は一切兼任し辞めることはありませんでした。

私の歯科保健活動はライフワークに決めていたので, それらの関係委員は多く務めさせていただいておりました。そして, 都歯選出日歯代議員を平成6年から昨年まで14年間務めました。

○日本歯科医師会

山崎数男会長の時代から, 広報委員をやり, その後主として公衆衛生委員会を中心に都歯理事の時は, 生涯研修で全国都道府県に研修講師として廻らせていただきました。平成に入ってから歯科衛生士教育がらみの歯科医療従事者の問題や需給関係の検討会や委員会で, 対厚生省への資料作りや, 本年完成した歯科衛生士のリフレッシュのテキストの編集委員長等を務めておりました。

○同窓会関係

歯科界では学閥的な, 出身校の同窓会の連繋が強く, 全員が同窓会支部に属し, 区歯・都歯・日歯に於いても全て同窓会のバックで仕事をするような状況にありましたが, 同窓会内部としての活動としては, 荒川支部では昭和37年から若手会員

として, その後幹事を長くやり副支部長, 平成3年頃から現在まで18年位支部長をしております。区歯の会長になったのも同窓会のバックによるものでした。

東京地域支部連合会に於いては, 発起人の1人として自認する位で, 昭和30年代の後半親水会という集まりがあり, 私は, 熱田現学校法人東京歯科大学理事長達のグループに居り, 一方の学部会と一緒に, 更に都内の各支部をまとめる会を作る準備に参加して, 清藤司郎会長を中心にまとまるように持って行きましたのが支部連合の始まりです。同窓会本部では, 斉藤静三会長, 五十嵐会長の6期12年, 主として広報担当理事を務め, それまでに10年位同窓会広報の編集委員をしておりましたので, 薬師寺現東京歯科大学副学長とも長くお付き合いをしておりました。そのお陰で, 編集作業のイロハも学び, 名簿編集の苦労等も体験でき, すべてが現在の仕事に役立っていることに感謝いたしております。

4. 地方自治

私は昭和10年(1935年)荒川区で生まれ, 小学校, 中学, 高校まで荒川区内, 東歯大を出てから歯科医として約50年全部荒川区内ということもあって, 何かと区行政から頼まれることが増えつつあります。先ず平成4年から区の教育委員を2期8年務め, その間2年間教育委員長になりました。そして23区教育委員長会の会長を1年間務めました。それ以後, 現在もやっているものとしては, 区政改革懇談会座長, 区の基本構想推進委員, 個人情報保護審議会の審議委員, 最近では①区民幸福推進システムの開発②子どもの貧困・社会排除問題の研究③区政における業務遂行評価管理のあり方とモチベーション改善に関する研究等に取り組む財団法人荒川区自治総合研究所の評議員(定員3名)に引っぱり出され, 更に3年前から生まれ育った所に恩返しをということで, 町会長を引き受けてしまいましたが, 祭礼委員長までくっついていて, 思ったよりの大変さを感じていますが, 地域のためになる仕事と思って一生懸命務めています。又, 単発的にシンボルマークやシンボルキャラクター等の選考委員や吉村昭記念文学館推進委員会委員等をやらされています。

歯科医師として、社会人として地域に貢献出来ることは、積極的に取り組む姿勢が大切であると考え、今日この頃です。

5. その他

○医療法人協会

私共の医療法人は昭和53年設立ですが、医療法人協会は日本と東京都とやはり分かれており、歯科医師会と同じような形式になっています。都歯政治連盟の鈴木賢先生が歯科を代表して両方の副会長になっておられ、私と一緒に手伝えといわれ、法人協会に関心を持ちました。昭和61年に都の理事、社団法人日本医療法人協会の常務理事になり、医科の4病団の内容を知ることが出来ました。平成6年に鈴木先生の後を受けて都と日本の副会長に就きましたが、新しい会長が病院中心で診療所の規模は無視という会務運営で歯科についても無関心の態度なので、私の力ではどうにもできず一期で手を引くことになりました。

○ICD(国際歯科学士会)

30代の後半に杉山不二学長と亀沢シズエ都学歯会長のご推薦をいただき、ICDフェローになりました。同期には河村洋二郎元会長等多くがおられます。三大事業参加の他、各種委員、常任理事、副会長等を歴任し昨年からは終身会員となりました。その間色々な先輩からご指導ご交誼を賜り、歯科界の知己が全国に広がり、現在の私の活動にプラスになっております。

○歯科医療管理学会

私の長兄の友人佐藤貞勝先生からの半ば命令で管理学会に入会いたしました。やや人材不足の時でもあったようで、織家先輩・大塚元会長の弟分の形で色々与会務をやらされました。特に山本為之先生の会長の時は専務理事的に動き回りました。財政難の折、会計面での仕切りを長くやっていたように思っております。常務理事や副会長、大塚会長の時は会長が倒れられ、任期半ばから会長代行も務めました。その後、監事となり現在のように学会の姿がきちんと来て来たことは、大変喜ばしいことです。

○ライオン歯科衛生研究所

都保健会は歯磨大会の主催団体、都学歯は後援

団体となっていましたので、歯磨大会の組織委員や実行委員を務めておりましたが、平成15年から研究所の評議員となり事業全体の評議に加わることになり、他の評議員は大学の幹部や学者なので、私は開業医・学校歯科医のサイドからの意見を申し上げる唯一人として会議に参加しています。

○歯科開成会

私は昭和29年に開成高校を卒業しているので、東京歯科大学の学長に杉山不二教授がなられた時、開成出身の歯科医が集まってお祝いをしようということになり、調べたところ、200名以上居ることが分かりました。以後、先ず杉山先生を頭にして歯科開成会というのを作りましょと、その世話人・幹事を選ぶことになり、各歯科大学歯学部を単位に選出し、私も最初の時から世話人となり、園山会長、山本為之会長、石川純会長と続き、石川会長逝去に際し、会長代理をやり、そのまま今日まで会長を務めておりますが、年々開成出身の歯科医が激減しており、3年に一度の総会も盛り上がり欠いていることに責任を感じているところです。

○地元の出身小学校の同窓会長

出身小学校に同窓会があり、創立110周年を記念して同窓会もまとまって来ました。私は同校の学校歯科医で、時々学校へ行って校長先生とも親しいということで、同窓会長に推されてしまいました。戦災等で卒業生もバラバラに散ってしまっで地元に残っていないこともあり、十数年続けています。

おわりに

以上、簡単に半生を振り返らせていただきましたが、文章の中で色々ご指導いただきました多くの先輩諸先生のお名前を紙面の都合でお入れ致しませんが、失礼の段、ご容赦くださいますようお願い申し上げます。考えて見ますと、常に前向きに善意にとらえて、頼まれたら成るべく引き受ける気持ち、これは自分の特長、能力は周りの人が決めるのであって、自分に自信がなくても、引き受けてから努力をすれば、それが成果となって結果に繋がって行くものだと現在も信じております。このことは後

輩の方々が最近色々の役職を辞退されるのを見て、
ご自分にとって必ずプラスになることを労を惜しん

で立ち向かわない感じがしてなりません。私の取組
み方をご参考にしていただければ幸甚です。